|  |
| --- |
| Microsoft WordによるJSDSS論文作成のガイド（第1.1版） |
|  |
| 長谷川孝博†1　生田目崇†2　八卷直一†3 |
|  |
| **概要**：このパンフレットは，日本ソーシャルデータサイエンス学会論文誌（以後，論文誌と呼ぶ）に投稿・寄稿する原稿，製版用原稿をMS-Wordを用いて作成するためのガイドである．このパンフレットでは，論文作成のためのMS-Wordテンプレートファイル（.dotx）について解説している．また，このパンフレット自体も論文と同じ方法で作成されているので，必要に応じて雛形として参照されたい． |
|  |
| **キーワード**：日本ソーシャルデータサイエンス学会論文誌，MS-Word，スタイルファイル |

# はじめに [[1]](#footnote-1)\*【\*の文字書式「隠し文字」】

　日本ソーシャルデータサイエンス学会では，2017年2月の刊行を計画している．本稿では，日頃からMS-Wordで文書を作成している著者向けに専用のテンプレートファイル（.dotx）とテンプレートファイルを用いて作成した原稿例を示す．

　なお，当面はMS-Wordをもとに最終原稿を作成するため，投稿時にできるだけ本テンプレートを用いて作成されたい．

# 投稿から出版まで

　論文の作成から，論文が掲載された論文誌が出版されるまでの流れを以下に示す．

1. テンプレートファイルの取得

学会ウェブサイトより，MS-Word用のテンプレート（Word2007以降用）をダウンロードいただく．なお，インターネットにアクセスできない方は，学会事務局(jsdss@jsdss.org)にご相談していただきたい．

このキットには下記のファイルが含まれている．

* テンプレートファイル: jsdssstyle-ms2016.dotx
* 作成した原稿例: ipsjstyle-ms2012.pdf

また，提供するテンプレートファイルは，図 1に示す通り，3つのセクションから構成している．

(a)表題，著者名，概要(b)本文，参考文献，付録



図 1　MS-Wordテンプレートファイルの構成

なお，投稿論文はダブルブラインド制をとっているため，投稿用原稿「著者名」「所属」「謝辞」は採録が決定してから追記すること．

1. 製版用原稿の作成

採録が決定したら，査読者からのコメントなどに従って原稿を修正する．

1. 製版用原稿とファイルの送付

学会へはテンプレートから作成したMS-Wordファイル，製版用原稿のPDFファイルとハードコピーの双方を送付する．ファイルの送付方法などについては，学会事務局からの指示に従うこと．

1. 著者校正

学会では用語や用字を一定の基準にしたがって修正することがあり，またMS-Word環境の差異などによって著者が作成したPDFファイルと実際の最終原稿が微妙に異なることがある．これらの修正や差異が問題ないかを確認するために，著者に確認用PDFファイルが送られるので，もし問題があれば指摘して返送する．

1. 公開・製本

著者の校正に基づき最終的な製版を行い，公開する．ただし著者の希望により製本も受け付ける．

# テンプレートファイルの使い方

## 一般的な注意事項

　テンプレートファイルを開くことにより，テンプレートファイルに沿ったMS-Wordの新規文書が作成される．

## ページ設定

　MS-Wordによる論文作成では，投稿用と製版用原稿のページ設定を1ページが26字×48行×2段=2,496字とし，同一設定とすることにより，投稿用原稿から製版用原稿作成のための修正が最小限となるようにしている．このため，本テンプレートファイルでは，以下のようなページ設定を行っている．

1. ページの余白

ページの余白は，上：22mm，下：25mm，左：17mm，右：17mmとする．

1. 2段組の「文字数と行数」

2段組の文字数と行数は，「文字数と行数を指定する」を選択し，文字数：26文字，行数：48行とする．

## MS-Wordの書式設定（スタイル）

　MS-Wordでは，文字列の書式設定（文字書式や段落形式など）をスタイルとして事前定義できる[[[2]](#endnote-1)]．本テンプレートファイルでは，論文ならびに研究報告作成支援用として表 1に示すスタイルを用意している．例えば，該当する段落にカーソルを置いた後，スタイルの中から「#見出し1」をクリックすれば，この書式設定が段落に適用される．

　なお，スタイルの設定操作にあたっては，本テンプレートファイルで用意したスタイルの設定が変更されないよう下記に留意願いたい．

表 1　本テンプレートファイルで用意したスタイル

Table 1　Set of Style in MS-Word template file.

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| スタイル名 | 用途 | フォント名 | 文字サイズ | 文字列配置 |
| #表題 | 表題 | MSゴシック（太字）Times New Roman | 14pt | 中央揃え |
| #標準 | 本文 | MS明朝Times New Roman | 9pt | 両端揃え |
| #概要 | 概要キーワード | MS明朝Times New Roman | 8pt | 両端揃え |
| #著者名 | 著者名 | MS明朝Times New Roman | 12pt | 左揃え |
| #見出し1 | 節の見出し | MSゴシック（太字）Times New Roman | 11pt | 左揃え |
| #見出し2 | 小節の見出し | MSゴシック（太字）Times New Roman | 9pt | 左揃え |
| #段落番号 | 番号付きの箇条書き | MSゴシック（太字）Times New Roman | 9pt | 両端揃え |
| #箇条書き | 黒丸の箇条書き | MS明朝Times New Roman | 9pt | 両端揃え |
| #脚注参照 | 脚注参照用のラベル | MS明朝Times New Roman | 9pt | － |
| #脚注文字列 | 脚注 | MS明朝Times New Roman | 7pt | 左揃え |
| #文末脚注参照 | 文末脚注参照用のラベル | MS明朝Times New Roman | 9pt | 左揃え |
| #文末脚注文字列 | 参考文献の記述など | MS明朝Times New Roman | 8pt | 左揃え |
| #図表番号 | 図表番号の題目 | MS明朝Times New Roman | 9pt | 中央揃え |
| #参考文献一覧 | 参考文献の番号付け | MS明朝Times New Roman | 8pt | 左揃え |

## 表題などの記述

　表題，著者名とその所属，アブストラクト，キーワードを記述する．書式設定については，スタイルを使用して設定するか，表 1の書式設定値を参考にして記述して欲しい．なお，日本語については最初のページの本文の前，英語については，最後のページに独立してこれらを列挙する．

**表題**

和文の表題を罫線内に記述する．

**著者名と所属**

各著者の所属を第一著者から順に罫線内に記述する．

**アブストラクト**

和文ならびに英文の概要を罫線内に記述する．

**キーワード**

和文ならびに英文のキーワードを罫線内に記述する．

## 見出し

　節の見出しを記述する場合には，段落前に1行の空白行を記述すること．なお，スタイル「#見出し1」を適用した節の見出しは2行を占めて出力される．

## 文章の記述

**フォントサイズ**

本文のフォントは，日本語：MS明朝 9pt，英数字：Times New Roman 9ptとする．

**句読点**

句点には全角の「．」，読点には全角の「，」を用いる．ただし英文中や数式中で「.」や「,」を使う場合には，半角文字を使う．

**全角文字と半角文字**

全角文字と半角文字の両方にある文字は次のように使い分ける．

* 括弧は全角の「（」 と「）」 を用いる．但し，英文の概要，図表見出し，書誌データでは半角の「 (」 と「)」 を用いる．
* 英数字，空白，記号類は半角文字を用いる．
* カタカナは全角文字を用いる．
* 引用符では開きと閉じを区別する. 開きには“ を用い，閉じには ”を用いる．

## 図表番号の記述

　図表番号の書式設定については，スタイルを使用して設定するか，表 1の書式設定値を参考にして記述して欲しい．なお，ガイドの図表番号の記述にあたっては，表，図，数式などに図表番号を自動的に追加するMS-Wordの「図表番号」機能を利用して作成している．

なお，英文ラベル名（“Figure”, “Fig.”, “Table” など）を使用したい場合には，[ラベル名]をクリックして新たにラベル名を作成した後，上記の操作を行う．

## 参考文献リストの作成

　参考文献リスト[[[3]](#endnote-2)]には，原則として本文中で引用した文献のみを列挙する．順序は参照順あるいは第一著者の苗字のアルファベットおよび出版年の順とする．なおこのガイドの参考文献は，MS-Wordの「文末脚注」機能を利用して作成している．

## 参考文献の参照

　通常，本文中で参考文献を参照する場合には，参考文献番号が文中の単語として使われる場合と，そうでない参照とでは，使用する文字の大きさが異なる．しかし，本テンプレートファイルにおいて，MS-Wordの「文末脚注」機能を利用した場合には，文字サイズはすべて文中の単語と同一の大きさとなる．

たとえば，

　文献 [[[4]](#endnote-3)]によれば．．．解説書である．

　複数参照文献の引用例 [[[5]](#endnote-4), [[6]](#endnote-5), 6]

となる．

なお，このガイドでは，MS-Wordの「図表番号参照と文末脚注参照」機能を利用して作成している．

## 謝辞，著者紹介

　投稿用ならびに製版用原稿では謝辞を参考文献の直前に挿入し，著者紹介を参考文献の直後あるいは付録の直後に挿入する．

## 付録

　付録がある場合には，参考文献の直後に引き続いて記述する．

# おわりに

　MS-Word用のテンプレートファイルは運用が始まってから日が浅いため，解決されていない問題点が少なからずあると思われる．これらを著者の方々の御協力を仰ぎつつ，少しでも使いやすくするための改良を加えていくつもりである．そこで，テンプレートファイルに関する要望や意見を，是非wordtemp@ipsj.or.jpまでお寄せいただきたい．

　**謝辞**ご協力いただいた皆様に，謹んで感謝の意を表する．

**参考文献**

1. “Microsoft Office 製品情報“. https://office.microsoft.com/ja-jp/products, (2016年02月20日アクセス).
2. 桜井貴文. “直観主義論理と型理論,” 情報処理, Vol. 30, No. 6, pp. 626-634 (1990).
3. 田中正次, 村松茂, 山下茂. “9段数7次陽的Runge-Kutta法の最適化について,” 情報処理学会論文誌. Vol. 33, No. 12, pp. 1512-1526 (1992).
4. 千葉則茂, 村岡一信, 「レイトレーシングCG入門」, サイエンス社 (1990).
5. Chang, C. L. and Lee, R. C. T.. *Symbolic Logic and Mechanical Theorem Proving*, Academic Press, (1973).

**付録**

**付録A 参考文献リストの作成について**

　付録の番号はA, B, ．．．とする．

表A.1 テンプレートファイルの更新履歴

|  |  |
| --- | --- |
| 版数 | 更新内容 |
| V1.0 | 2017-02-09初版 |

|  |
| --- |
| Guide of Manuscript Making of JSDSS(Version 1.1) |
|  |
| Takahiro HASEGAWA†1　Takashi NAMATAME†2　Naokazu YAMAKI†3 [[7]](#footnote-2)\*【\*の文字書式「隠し文字」】 |
|  |
| ***Abstract***: This manuscript is a guide to produce a submitted article or document to Journal of JSDSS and the final camera-ready manuscript of a paper to appear in the Journal using MS-Word template file (.dotx). Since this manuscript itself is produced with the MS-Word template file, it will help you to refer it. |
|  |
| ***Keywords***: Journal of JSDSS , MS-Word, Style ﬁles |

1. \* †1 静岡大学

 †2 中央大学 (連絡先：nama@kc.chuo-u.ac.jp)

 †3 静岡大学名誉教授

投稿日：

採択日： [↑](#footnote-ref-1)
2. [↑](#endnote-ref-1)
3. [↑](#endnote-ref-2)
4. [↑](#endnote-ref-3)
5. [↑](#endnote-ref-4)
6. [↑](#endnote-ref-5)
7. \* †1 Shizuoka University

 †2 Chuo University (Correspondence Author: nama@indsys.chuo-u.ac.jp)

 †3 Professor Emeritus, Shizuoka University

　 [↑](#footnote-ref-2)